

音のプレーヤーだった。たまたま、福島の震災は、公式戦で勝利を決定していたことも。そして、何よりも覚えておけるゴールを挙げる。当時のゴールから見れば、「監督の小さなガッツ」だ。現役選手として絶頂を謳歌しているように見えるが、「腰のところで、ぐっ」と拳を握って、目立たないよう、縁の下の力持ちで指導者になること。ちっぴというんですかね。仲間が駆け寄ってくる。「あつちの方がかっこいい場面は、スローモーションで思ってる。俺

小さなガッツ

高知県勢初のJFLに導いた高知ユナイテッドSCの大谷武文監督。選手らに胴上げされ、宙を舞った(福島県のJヴィレッジスタジアム。久保俊典撮影)



は無名の日章学園だ。調する」といった類いの言葉だ。Jリーグの前身であるJSL(日本サッカーリーグ)1部の元名プレーヤー、早稲田一男からの熱心な勧誘があったのが、大谷は「一緒に頑張ろう」と、大きな理由。しかも大谷は「一緒に頑張ろう」と、レセンの仲間には片っ端か

アコーディオン慰問100回

高齢者施設や病院でアコーディオンを演奏するボランティア活動をしている男性がいる。高知市大津甲の岡風呂佳之さん(49)。11日に同市内の特別養護老人ホームで開いた演奏会は区切りの100回目となり、「まさか100回もできるとは思わなかった」と感慨深げだった。(深田恵衣)

岡風呂さん(高知市)高齢者施設へ



「喜ぶ姿に達成感」

100回目の慰問演奏会でアコーディオンを演奏する岡風呂佳之さん(高知市市行寺)

岡風呂さんがアコーディオンに目覚めたのは42歳の時。ある演奏会で高知市のプロ奏者、坂野志麻さん(43)の演奏を聞き、一発でその音色に魅せられた。音楽の経験は全くなかったが、その場で弟子入りを申し込んだ。本業はガソリンスタンドの店長。仕事の傍らレッスンを受け、3カ月がかりで最初の曲を習得した。4年ほどたつてレパートリーが増えてきたころ、知り合いのケアマネジャーに「練習にどう？」とティサービスでの100回目の公演は、同市は仕事、公演で休めてないというが、「来年もまたお年寄りを前に演奏。ゲスト出演の坂野さんみせている。」

慰問演奏を勧められた。ジャズギタリストやオペラ歌手ら総勢8人で、「上を向いて歩こう」やクリの達成感が快感だった。スマスソング16曲を披露した。観客のお年寄りは口ずさんだり手拍子をしたりして大喜び。有沢信子さん(88)は「最高。音楽が大好きなのでいつも楽しんでいる。音色が懐かしくてよかった」。



とさ自由学校が 高知商業高訪問

生徒と交流

今年4月に開校した私立小学校「とさ自由学校(吾川郡いの町勝賀瀬)の児童が11日、高知市大谷の高知商業高校を訪れ、高校生と交流した。同小は体験活動を重視する教育カリキュラムや学年にこだわらない授業が特徴で、現在小1~5年の24人が通っている。本年度、子どもたち将来への夢や希望を持ってほしいとの思いから、県内外で活躍する人に生き方を語って



う

【室戸】室戸ジオパーク 南国市の「スウィーツ」推進協議会はこのほど、室戸と開発した「ローロール」は、西山台地で栽培された

園児が甲浦駅で ツリー飾り付け



スを浦駅